

平成 26 年度社会福祉法人至泉会事業報告

運営面については、通所施設では、出席（通所）率をいかに上げるか、また入所施設では入所定員の確保をいかにしていくのかということを目標に運営をしてきましたが、各施設とも厳しい状況にありました。あけぼの園は、年度途中での職員の退職がありましたが、下半期は療育体制が整い契約児童数が増え、かつ出席率も良かったため、年間延べ利用人数と月平均の出席率は、前年度を上回ることができました。精陽学園は、年度途中で成人利用者の成人サービスへの移行が思ったより進んだことと、入所希望者の多くが幼児で一度に多く受け入れができなかったことにより、今年度も定員を満床にすることができず、経営的には非常に厳しい状況でした。ソーレ平塚は、入居者の入院が多く、平均すると毎月 1 名は入院している状況にあったことと、短期入所の利用者で毎月多く利用する方がソーレ平塚に入所したことにより短期入所の利用者数が減少したため、昨年度に比べて収入が減少しました。ソーレ平塚療育園は、上半期は職員の異動によりサービス管理責任者が不在となり、療育園の生活介護を一時休止して成人の利用者をケアセンターの生活介護に移行し、サービスを低下させないようにしましたが、下半期にサービス管理責任者の異動を行い療育園の生活介護を復活させました。また、年度内でサービス管理責任者の研修に職員を派遣し資格を取らせ、職員の異動があっても業務を継続できるようにしました。すこやか園は、新入園児が昨年度に比べて少なかったことに加えて、幼稚園等への並行通園児が増えたこともあり、契約児童数は増えたものの、昨年度に比べて出席率や一日平均利用人数は減少しました。

当法人では、法人の基本理念を念頭に利用児者の安心と安全を守り、療育や支援等の各種サービスを提供することを目標としています。今年度は、死亡事故はなかったものの、ソーレ平塚において転倒による骨折があり、再発防止に向けて支援方法の見直しを行いました。その他の施設は、大きな事故はありませんでしたが、軽微な交通事故が数件あったので、職員への交通安全指導を行いました。また、誤薬や薬のセットミスなどがあった施設においては、再発防止に向けて業務委託している医師に薬に関する講義をしていただきました。

近年、社会福祉法人は地域社会への貢献を求められるようになってきましたが、今年度は、以下の活動を行いました。①独居老人への配食サービス、②地域の障害児親の会の活動（障害児の余暇支援）等へのレインボーホールおよび会議室の開放、③平塚市より委託された市道の花壇の管理、④保護観察者の社会貢献活動の受け入れ。

今後とも利用児者への療育及び支援については、各施設ともに一人ひとりに向き合い、地域のニーズも積極的に受け止め、至泉会を利用される利用児者、ご家族が幸せになれるよう心がけていきたいと思っております。